

聖書:ダニエル書9章1～19節

説教:私たちは罪を犯しました

はじめに

バビロンの王ネブカドネツアルがエルサレムを包囲し、南王国ユダの主だった人たちとともにダニエルがバビロンに補囚として連れて行かれたのは、紀元前605年のことでした。ダニエルはどんなときにも信仰を守り、人にへつらうことがなく右にも左にもそれることがなかったため、歴代の王たちから信頼を得て、補囚という身分でありながら国の要職に就くという大出世を果たしていきます。

しかしダニエルの心は晴れません。ダビデが準備し、ソロモンが建てたエルサレムの神殿は、徹底的に破壊され、財宝はことごとく奪い去られ、いまや見る影もなくなってしまいました。アブラハムの子孫であるユダヤ人たちは外国の地に連れ去られたままです。自分たちはいつ故郷に戻ることができるのか。そして神殿はいつ回復されるのか。ダニエルはその答えを知りたくて、自分が見た幻の中で御使いに尋ねても、肝心の自分の知りたいことはいっさい教えられず、大きなショックを受け、とうとう病気になるまで寝込んでしまった。それが前回までのあらすじです。

今日開いている9章1節に、「メディア族のクセルクセスの子ダレイオスが、カルデア人の国の王となったその元年」とあります。6章1節にもダレイオスという同じ名前があつて混乱してしまいますが、これは別人です。9章のダレイオスが王となった年代はほぼ正確に特定できて、紀元前539年もしくは538年だと言われます。このとき、ダニエルに大きな転機がやっけてまいります。彼にどんなことが起きたのか。そこにどのような神のご計画があつたのかを見てまいります。

## 1 エレミヤ

### 1) 南王国ユダで活動した預言者

2節を読みます。「すなわち、その治世の第一年に、私ダニエルは、預言者エレミヤにあつた主のことばによって、エルサレムの荒廃の期間が満ちるまでの年数が七十年であることを、文書によって悟った。」

エレミヤは、南王国ユダで紀元前627年頃から583年頃まで活動したと言われますから、ダニエルよりも数十歳ほど年上の先輩にあたる。ユダの王と人々に対して、主に立ち返られなければ必ずバビロンによって滅ぼされる、そのような神の厳しいさ

ばきと語っていましたが、当然人気がない。王の怒りを買って牢につながれてしまったり、またあるときはエレミヤが神のことばとして書き記した文書が焼かれてしまったということもあった、とエレミヤ書に書かれています。

### 2) エルサレム荒廃の期間

さて2節に戻って、ダニエルはエレミヤ書のどこを読んだのかは、70年という数字があるのすぐわかります。エレミヤ書29章10、11節です。「まことに、主はこう言われる。『バビロンに七十年が満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにいつくしみの約束を果たして、あなたがたをこの場所に帰らせる。わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわがわがではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。』」

同じ29章を1～3節を見ると、エレミヤはバビロンに引かれていった同胞に読んでもらうために、エルサレムでこの29章を手紙として書き、ある人たちの手に託してバビロンに運んでもらったと書いてあります。それでダニエルはこの手紙を読み、自分が求めていた答えを探し当てた。彼がバビロンから連れて来られた日から数えて66年が経っていました。

エレミヤが語ったことは、もちろんそのとおりとなります。エルサレムが完全に滅亡したのがBC. 588年で、神殿が復興したのがBC. 516年。その間およそ70年。エレミヤが「あなたがたをこの場所に帰らせる」語ったとおりとなります。

## 2 祈るダニエル

### 1) 主に断食をした

3～5節を読みます。「そこで私は、顔を神である主に断食をし、粗布をまとって灰をかぶり、祈りと哀願をもって主を求めた。私は、私の神、主に祈り、告白した。『ああ、私の主、大いなる恐るべき神。あなたを愛し、あなたの命令を守る者には、契約を守って恵みを下さる方。私たちは罪ある者で不義をなし、悪を行って逆らい、あなたの命令と定めから外れました。』」

なぜこのような祈りをするのでしょうか。故郷に戻れることがはっきりしたので、お祝いしてもよいくらいです。もちろん理由がある。エレミ

や書に続きがあった。29章12～14節。「あなたがたがわたしに呼びかけ、来て、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに耳を傾ける。あなたがたがわたしを捜し求めるとき、心を尽くしてわたしを求めらば、わたしを見つかる。わたしはあなたがたに見出される——主のことば——。わたしは、あなたがたを元どおりにする。あなたがたを追い散らした先のあらゆる国々とあらゆる場所から、あなたがたを集める——主のことば——。わたしはあなたがたを、引いて行った先から元の場所へ帰らせる。』」

## 2) わたしに祈るなら

イスラエルが神に逆らって罪を犯したのにも関わらず、七十年経ったらイスラエルに再び戻してくださいとの約束を語ってください。それはダニエルも、「あわれみと赦しは、私たちの神、主にあります」と祈っているとおり、神の一方的なあわれみによるものでした。私たちがいま、罪を赦されてこうして神の前に座ることができるのも、まさに神のあわれみです。

そのようにしてくださる神に対し、私たちはどう応答するのでしょうか。私たちはただ赦しを待ってればよいのか。いいえただひとつすることがある。「あなたがたがわたしに呼びかけ、来て、わたしに祈るなら」とあります。ダニエルはこれこそが自分の役割であることを自覚し、祈り始めます。

## 3) 私たちは罪を犯しました

ではダニエルはどう祈ったのか。いくつか挙げてみます。例えば8節。「主よ。顔をおおう恥は私たちにあり、私たちの王たち、首長たち、および先祖たちにあります。私たちはあなたに対して罪を犯してきました。」15節の最後。「私たちは罪を犯して、悪を行いました。」

ダニエルが「私たち」と言っている事に注目してください。「私たち」ですから当然その中にダニエル自身も含まれる。王たち、首長たち、および先祖たちは、神が遣わした預言者の警告を無視し、異教の神々を拝みつづけたのですから、彼らの罪は明かです。でも、ダニエルはいつ罪を犯して悪を行ったのでしょうか。これまでダニエル書を見ましたが、ダニエルは罪を犯すどころか、獅子の穴に投げ込まれても神に信頼し続けたほどの信仰者であったのです。それがどうして「私たち」と自分も含めて祈るのか。

## 3 変えられるダニエル

### 1) 「神の前に私が潔白である」

私たちは、ダニエルは完璧な信仰者だと思ってきました。ダニエルが獅子の穴に投げ込まれ、翌朝無事に生還したとき、彼はダレイオス王に対してこのように答えました。6章22節です。「私の神が御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の危害も加えませんでした。それは、神の前に私が潔白であることが認められたからです。王よ、あなたに対しても、私は何も悪いことはしていません。」

御使いによって獅子の口が塞がれ、無事にダニエルが生還したのですから、ダニエルの言うことは間違いありません。そこになにか問題があるのでしょうか。でも、「私が潔白である」と自信をもって言えば言うほど、その自信は新たな別の不満を呼び起こすのではないですか。罪を犯したのは王たち、首長たち、先祖たちではないか。彼らの罪のせいで、潔白である自分がバビロンに連れて来られてしまった。私は被害者だ。

皆さんも経験があるでしょう。自分がやった訳ではないのに、ほかの人が失敗した問題の後始末をしなければならない。自分が間違っただけではないのに、当の本人に代わって謝らなければならない。そういうとき、心の中は複雑ではないですか。「あなたのせいで」「なぜ自分が」とぶつぶつ文句を言いたくなる。

### 2) 主よ、お赦しください

でもそれは正しいことなのでしょう。イエスのことを思い起こしてください。この方は罪のない方でありながら、私たちの罪のために十字架に追いやられてしまう。そのときこの方は「あなたがたのせいで、どうしてこんな目に遭わなければならないのか」と文句を言ったか。黙々と十字架におかかりになり、自らも罪ある者の姿となられて十字架の上で祈られました。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」(ルカ23章34節)

このことから教えられます。神は、自分は正しいという祈りを待っているのではない。そうではなくて、「自分もあの人たちと一緒に罪を犯した者である。主よ、お赦しください。」そのような祈りを求めていた。

ダニエルはエレミヤ書を読んで、初めて自分が今までいかに高慢であったのか教えられます。それで断食をし、荒布とをまとって、灰をかぶり、他の人たちのために祈っていく。ここまで来るのに66年間。大変な人生でした。しかし、ダニエルのこの

祈りによって、バビロンに補囚となった人々はやがて故郷に戻ることができた。

私たちはこの世でクリスチャンとして何をしているのか。おそらくこのことではないでしょうか。神を知らない人たちが罪を繰り返すとき、私たちは批判的な目で見えてしまい、私たちは違いますと言いたくなる。でもそれならばかつてのダニエルと何も変わらない。私たちは、同じ罪人に過ぎない。私は潔白ですと祈るのではない。「私たちは罪人です」と祈らされていく。この祈りを神は待っておられます。もしそう祈れるようになるなら、何が起るのか。そのことは9章の後半に書かれています。また次回に見ていきます。